

取材のお願い

公益財団法人古川知足会古川美術館

古川美術館_{分館} 爲三郎記念館特別企画

「亀井勝卒寿展 原点回帰～藤井達吉との出会い」

2023年4月8日(土)～5月21日(日)

展覧会のご案内

各位

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

この度、中部地区を代表する陶芸家亀井勝の名古屋発となる回顧展「亀井勝卒寿展 原点回帰～藤井達吉との出会い」を爲三郎記念館（古川美術館分館）にて開催します。

日展と現代工芸で現在でも活躍する亀井の芸術観の根底には、父清市と工芸家・藤井達吉から受け継がれた芸術工芸思想があります。本展では亀井勝の作品と共に亀井家に残る藤井達吉の直筆文などを紹介し、藤井に感銘を受け培われた亀井勝の創造性を深掘します。

是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

Topic1 亀井勝とは・・・

亀井勝は愛知県立瀬戸窯業高等学校を卒業後、父清市氏のもとで作陶活動に入りました。昭和28年には日展で最年少者として入選しますが、その後数年間は公募展には出品せず、持ち前の探究心と向上心を持って新しい作風を取り入れた創造美を追求していきます。昭和37年に再び公募展に出品をするようになり、現在は日展を中心に活躍しています。日展特選、日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞、中日国際陶芸展中日大賞など数々の賞を受賞、まさに東海地区を代表する作家である亀井勝は自然を題材とし、やきものが有する独特の質感や表情などを駆使して、独創性あふれる作品を発表しています。中でも東アフリカやチュニジアで出会った壁をテーマにした「風シリーズ」は亀井の代名詞となり、多くの人々を魅了しています。

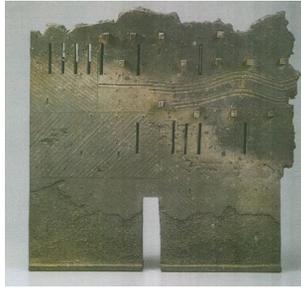
Topic2 陶芸家・亀井勝の変遷



日展で特選を受賞した黒陶シリーズ。丸型の彫と細い線彫した鳥、その周辺には星座を思わせるような点と線の模様が施されています。

本作はドビュッシーのオンディーヌに着想を得て作られたものです。陶板にゆるやかにカーブを持たせ、音が流れる様を感じられ、作品全体で音楽を奏でているようです。

一見単調に見られる二つのくり貫かれた窓の四角。ここを注目してみると、驚くほど陶板が薄く、繊細な作りになっていることがわかります。



同じ黒陶シリーズでも異なる二色展開がこちらの作品です。褐色の土色を残した部分と焼成による墨色のコントラストが美しく目に映ります。

亀井勝の代表的なシリーズ風物語の一つ前の風シリーズ。砂漠のような、あるいは土壁が朽ちてはがれていくような凹凸が見られます。自然に窯変した焼き色も亀井勝の現在のスタイルが確立されたことを物語ります。

亀井勝の代表シリーズ風物語の始まりです。東アフリカのチュニジアで出会った壁をテーマに大胆なフォルム展開を見せている。作品全体に漂う重厚感こそがこの作品の見どころ。

Topic3 藤井達吉と亀井清市

藤井達吉（1881-1964）は昭和初期に瀬戸を訪れ、「工芸は総合芸術である」との考えを提唱し、若い作家たちに多大な影響を与えました。

瀬戸の作家たちは、藤井との交流の中で、芸術・工芸思想に触れ、創作の源泉であるスケッチの重要性を認識し、それぞれの制作に取り組みました。その藤井達吉の晩年を支え、時には芸術論を共有してきたのが亀井勝の父・清市です。亀井はこうした二人の交流を自らの目で、そして肌で体験してきました。本展では亀井勝が藤井達吉から受け継いだ芸術思想を紹介します。

Topic4 亀井家秘蔵の藤井達吉の愛蔵品

この茶室は藤井達吉が小原村（現・豊田市）で使用していたもので、亀井家に移築されたものです。ここには達吉と亀井清市が交わした直筆の手紙や小原で漉いた和紙絵、そして最晩年に使用していた自作の茶道具などが今もお保管されています。

亀井清市は献身的に藤井達吉の最晩年を支えた理解者でした。この茶碗は1954年に名古屋城内絵画館・猿面茶屋にて開催された「名残の会」で実際に使用された茶碗で、亀井清市の作です。そのほか、達吉造「練り込み茶碗」や「鉄絵鶴図」などの茶碗を初公開します。



Topic5 美術館の楽しみ方

アーティストトーク

予約不要

出品作家・亀井勝が出品作品や藤井達吉について話します。

日時 | 4月8日(土) 14:00~(20分)

参加費 | 無料 ※但し、別途入館券必要 会場 | 分館 爲三郎記念館

ギャラリートーク

予約不要

担当学芸員が作品を解説します。

日時 | 4月20日(木)・5月7日(日) 各14:00~(30分)

参加費 | 無料 ※但し、別途入館券必要 会場 | 分館 爲三郎記念館

亀井勝展「卒寿茶会」

要予約

爲三郎記念館にて開催中の亀井勝展を記念したお茶会を開催します。

日時 | 5月17日(水)

①10:15~ ②11:15~ ③13:00~ ④14:00~ ⑤15:00~

参加費 | 3,000円 ※別途入館券必要 会場 | 分館 爲三郎記念館「ひさごの間」立礼席

定員 | 各席9名 予約 | お電話にてお申込みください。

気軽に一服「木曜茶席」

予約不要

どなたでもお楽しみ頂ける気軽なお茶席です。

展示空間の中でお薄一服、お楽しみください。

日時 | 4月13日(木)・27日(木)・5月11日(木)

①10:10~ ②10:50~ ③11:30~ ④13:10~ ⑤13:50~ ⑥14:30~

参加費 | 1,200円 会場 | 分館 爲三郎記念館「桜の間」立礼席

※別途入館券必要

定員 | 各席6名

備考 | 予約は不要です。開館10時より爲三郎記念館内の専用受付にてお申込みください

作家ワークショップ

世界に一つの「オリジナルグッズ作り」

要予約

時間 | 10:00～12:00 / 14:00～16:00
定員 | 各回8～10名
会場 | 古川美術館3階会議室
参加費 | 各回5,000円(別途2館共通入館券必要)
備考 | お好きなワークショップとご希望の時間をお選びください。

第1回 4月16日(日)
「亀井勝秘伝・黒陶でオリジナル帯どめorアクセサリ作り」
講師 | 陶芸家・亀井勝(日展会員・現代工芸美術家協会理事)

第2回 4月23日(日)
「オリジナル茶杓作り」
講師 | 漆芸家・浅井啓介(日展会員・現代工芸美術家協会評議員)

第3回 5月13日(土)
「籐一輪挿しorオリジナルブローチ作り」
講師 | 籐作家・竹河いみ子(日展会友・現代工芸美術家協会本会員)

広報使用画像 メールにてお問合せください。mail : n_hayashi@furukawa-museum.or.jp (林 奈美恵)



亀井勝「彼方へ」1989年

展覧会情報

古川美術館分館爲三郎記念館特別企画

「亀井勝卒寿展 原点回帰～藤井達吉との出会い」

2023年4月8日(土)～5月21日(日) 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日: 月曜日

会場: 爲三郎記念館(古川美術館分館)

主催: 公益財団法人古川知足会

後援: 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社 CBCテレビ 東海テレビ
スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

観覧料: 大人1,100円 高・大学生500円 中学生以下無料 (爲三郎記念館単館券: 500円)

【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 林奈美恵 (n_hayashi@furukawa-museum.or.jp)